

科目名：解剖学

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	生理学・細胞生物学講座 (生体構造解剖学分野) 教授 仁田 亮
	連絡方法	TEL: 078-382-5320 E-mail: ryonitta@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	http://www.med.kobe-u.ac.jp/anatol/education/files.html
担当教員 (領域)	役 職 氏 名	生理学・細胞生物学講座 (生体構造解剖学分野) 准教授 吉川 知志
		生理学・細胞生物学講座 (生体構造解剖学分野) 助教 仁田 英里子
		生理学・細胞生物学講座 (生体構造解剖学分野) 特命助教 今崎 剛
担当教員 (学部外)	役 職 氏 名	保健学研究科 (保健学専攻) 准教授 荒川 高光
担当教員 (学外)	役 職 氏 名	京都大学大学院医学研究科腎臓内科学講座 特定准教授 山本 正道
		姫路獨協大学 医療保健学部理学療法学科 准教授 江村 健児
学習到達目標	解剖学は医学者の基盤となる学問である。学習到達目標を以下に定める： (1) 人体の構造を機能と関連付けて理解する (2) 中枢神経系の基本的な構造と機能、主要な神経回路について理解する (3) 医師としての心構え (使命感・倫理観・科学的思考) を培う	
Objectives (別添)	(1) Understanding macroscopic structures of human body. (2) Understanding basic structures and functions of central nervous system. (3) Developing the moral and scientific attitude of the physician.	
講義の概要・形式	<p>(1) 講義 解剖学の講義は人体解剖学と神経解剖学に分けて行う。人体解剖学では、循環器系、消化器系、呼吸器系など人体を機能系統別に分け、総論的な内容を中心に講義を行う。神経解剖学では、中枢神経系 (脳および脊髄) 各領域、脳室、髄膜、脳血管系についてその概要を講義し、最後に各領域を結ぶ主要な神経回路 (伝導路) について運動系および感覚系に分けて講義する。</p> <p>(2) 実習 骨学実習、人体解剖学実習、脳実習に分けて実習を行う。実習時間は限られているので、実習内容の十分な予習が必要である。実習は4ないし5名の班単位で行うため、班員全員が相互に協力して実習を遂行する必要がある。予習課題、レポートを課すほか、随時、口頭試問を行う。</p> <p>解剖学学習の根幹となる実習は、多くの篤志家 (死後に自らの体を大学へ無償で提供=献体するボランティア) とそのご遺族の善意により成立していることを忘れてはならない。また、解剖学実習は死体解剖保存法および篤志解剖法により厳しく規制されている。これらの法律の内容は人体解剖学実習のガイダンスで説明するから、実習に取り組むに際しては、特に倫理面に十分に配慮することを強く望む。</p>	

<p>講義内容</p>	<p>(1) 人体解剖学 (担当教員：仁田) 全31コマの講義シリーズにより全身の構造を系統的に理解するために必要な内容を概説する。具体的には、循環器系（血管系、リンパ系、心臓）、呼吸器系、運動器系（骨・筋学）、生殖器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、末梢神経系、感覚器系に分けて講義を行う。講義における人体の機能に応じた系統的な構造の学習（系統解剖学）と、人体解剖学指定教科書（解剖学講義またはグレイ解剖学）の自学自習による胸部、腹部など局所ごとの構造の学習（局所解剖学）を併用することで、実習の場での理解を格段に深めることが可能となる。</p> <p>(2) 神経解剖学 (担当教員：吉川) 中枢神経系の学習には様々なアプローチがあるが、本講義では中枢神経系の巨視的構造と機能の関わりを初学者向けに概説する。指定教科書に沿って各部位ごとの構造と部位間の機能的なつながりにポイントを置いて講義を行う。その後、実習により脳の全体像を把握することを目標とする。近年の非侵襲イメージングやロボット手術技術の格段の進歩により、現代医学にとって脳はもはやアンタッチャブルな臓器ではなくなった。臨床、研究を問わず、みなさんが中枢神経系を相手に活躍する場は今もどんどん広がっている。本講義はその最初の一步である。なお、中枢神経系の発生と微細構造については、それぞれ発生学と組織学に譲る。</p>
<p>授業における使用言語</p>	<p>日本語</p>
<p>今年度の工夫（準備学習・復習、関連科目情報等を含む）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人体各部の生理的意義や臨床的意義も交えながら講義する。 ・講義前に準備学習を行い、講義後には必ず復習して知識を身につけること。 ・具体的内容については、講義初回のガイダンスで説明する。 ・講義・実習に関する必要事項について、生体構造解剖学分野のホームページ（URLは上に記載した）に逐次、掲載するので該当ページを定期的に見ること。
<p>教科書・参考書等</p>	<p>（詳細は講義初回のガイダンスで説明し供覧する）</p> <p>■人体解剖学 指定教科書（1または2を入手することを強く推奨する）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 解剖学講義（伊藤隆著、南山堂）：記述が平易でよくまとまっており、通読に適した好著である。図版との併用で3次元構造の理解を進めてほしい。 2) グレイ解剖学 原著第3版（塩田浩平ほか訳、エルゼビア・ジャパン）：解剖学のバイブル的教科書Gray's Anatomyの姉妹書で、3次元グラフィックを駆使したわかりやすい図版、臨床症例を交えて工夫された記述など、秀逸な一冊である。 <p>■神経解剖学 指定教科書（入手することを強く推奨する）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) カラー図解 神経解剖学講義ノート：寺島俊雄著、金芳堂 <p>■指定実習書（必ず入手すること）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 解剖実習の手びき：寺田春水・藤田恒夫著、南山堂 <p>■アトラス（一冊購入することを強く推奨する）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) グレイ解剖学アトラス：塩田浩平ほか訳、エルゼビア・ジャパン 2) ネット解剖学アトラス：相磯貞和訳、南江堂 3) 解剖学カラーアトラス：Johannes W. Rohenほか著、医学書院
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>(1) 実習：全ての実習への出席が定期試験の受験要件と医学部規則に定められている。病気等のためにやむを得ず欠席する場合は、事前に電子メール等により担当分野教員に連絡して許可を得ること。実習の出席確認は、開始時と終了時の2回行う。連絡なく出席が確認できない場合はその都度減点となる。実習の出席状況と履修態度、実習中の口頭試問の結果等を総合して実習の可否を決定する。実習に合格しなければ学期末の定期試験を受験する資格を失う。</p> <p>(2) 成績評価：骨学は4月16日に、人体解剖学、神経解剖学は2年次前期定期試験期間中に筆記試験を行う。筆記試験の得点に実習レポート、実習中の口頭試問、実習および講義の出席状況、のじく通信などへの寄稿文などを総合して得点を決める。総合得点を100点に換算し、60点以上を合格とし、30点未満は学年末に行う再試験受験資格を失う。</p>